別紙

指導方法等の改善計画について〔　国　語　〕

三原市立三原小学校

全国学力・学習状況調査　本年度正答率

	国語Ａ	国語Ｂ
本校	80	66
広島県	73	59
全国	70.7	54.7

本年度の結果について

〇取組の成果と課題

昨年度の結果から，目的や必要に応じて情報を取り出し，段落相互の関係を考えて文章を構成して記述する問題に課題があった。そこで，授業では，文章を読み取り，それをノートにまとめたり，考えたことをペアや全体で説明し合ったりする授業を行った。また，朝会や桜山タイムで，聞き取ったことを書く練習を繰り返し行った。その結果として，国語Ａ・Ｂともに県平均を上回り，一定の定着が見られた。しかし，「書くこと」の領域については十分に力がついているとは言えない。

〇今年度の調査から新たに明らかになった課題

「話し手の意図を捉えながら聞き，自分の意見と比べるなどして考えをまとめる（38.9%）」「目的や意図に応じ，内容の中心を明確にして，詳しく書くこと（19.4%）」など，条件に沿った内容で整理して書くことに課題がある。

重点課題

〇「書くこと」の領域において，事実と感想・意見等を区別するとともに，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることに課題がある。
目的や意図に応じ，内容の中心を明確にして詳しく書くために，話の内容を正しく聞き取ったり，中心となる文章を見つけたりするなど，正しく読み取る指導が十分でない。

〇短時間に話の内容の大体を正しく読み取ったり，条件をもとに文章にまとめたりする学習活動を継続的に行う必要がある。

標準学力調査に向けた重点取組

〇授業

多くの情報の中から必要な情報を的確に取り出し，内容を理解する手立てとして，大事な言葉や文章に線を引いたり，箱で囲んだり，動作化をしたりして，内容の大体を理解する力を付ける。また，アクティブノートを活用して自分の考えをまとめ，友達の意見と比較しながら，相違点を発表したり要旨に書いたりする指導を継続して行う。

〇繰り返し学習

ある条件の中で文章にまとめる力を付ける手立てとして，本校で独自の聞き取り問題を作成し，朝学習や桜山タイムで，繰り返し文章を書く力を付ける。

取組計画表

	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
校内研修等（職員）	・全職員で通過率の低かった問題の誤答分析と改善策を考える。 ・朝学習（聞き取り・意見文）の問題文の開発		公開研究会					
児童への取組	【授業】アクティブラーニングを導入した授業の実施（とらえ方・考え方を大切にした授業やノート指導・対話を取り入れた授業等の実施により，論理的思考力を育む。）							
	【繰り返し学習】朝会や桜山タイムに聞き取り，再話の練習，読解問題の実施，フォローアッププリントの取組							
					学期末テスト（平均85 点）	標準学力調査（全国平均＋８ポイント）		学年末テスト（平均８５点）

別紙

指導方法等の改善計画について〔　算　数　〕

三原市立三原小学校

全国学力･学習状況調査　本年度正答率

	算数Ａ	算数Ｂ
本校	78	57
広島県	66	54
全国	63.5	51.5

本年度の結果について

○取組の成果と課題

昨年度の結果から，複数のグラフを関連付けて考察したり，事象を解釈し根拠の説明をしたりする問題に課題がみられた。そこで，授業では，グラフなどの複数の資料を関連付けて読み取ったり，求めた数値を根拠に考察し道筋立てて説明したりする力を付けるために，自分の考えをノートにまとめたり，ペアやグループで説明し合ったりする活動を継続して行った。その結果として，算数Ａ・Ｂともに一定の定着がみられた。しかし，算数Ｂの活用問題については十分に力が付いているとは言えない。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題

「図形の観察と論理的な考察・表現（69.9%）」「情報の関連付けと解釈・表現及び判断（17.8%）」などに課題がみられた。

重点課題

【課題１】「図形」領域で，合同な正三角形をしきつめた模様の中に，条件に合う図形を見いだせていない。

【課題２】「数量関係」領域で，棒グラフと帯グラフから読み取ることを，適切に判断することができていない。
実生活へ生かせる力が十分でない。

標準学力調査に向けた重点取組

授業と繰り返し学習を通して，次の取組を行う。

【課題１】しきつめの学習を行う際，その活動の感覚を養うだけでなく，そこからどんな形が見えるのか，なぜこんな形になるのかをノートにまとめたり，ペアやグループで説明し合ったりする活動も取り入れる。

【課題２】実生活の中から数字を取り出してそれを割合で表現したり，グラフ化したりして検証する活動を取り入れる。さらに分析して分かったことを，文型の例をもとに書く活動を取り入れて説明の仕方に慣れさせる。また，調べ方の異なる２つ以上のグラフを比較し，検討し合う。

取組計画表

	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
校内研修等（職員）	・全職員で通過率の低かった問題の誤答分析と改善策を考える。	・示範授業をもとに授業のポイントを学ぶ。	公開研究会					
児童への取組					学期末テスト（平均８５点）	標準学力調査（全国平均＋８ポイント）		学年末テスト（平均８５点）

ＮＣＣ：学びの活性化　授業力の向上の取組

【授業】アクティブラーニングを導入した授業の実施（とらえ方・考え方を大切にした授業やノート指導・対話を取り入れた授業等の実施により，論理的思考力を育む。）

【繰り返し学習】桜山タイムや宿題でフォローアッププリントの取組

別紙

指導方法等の改善計画について〔　理　科　〕

三原市立三原学校

全国学力・学習状況調査　本年度正答率

	理科
本校	68
広島県	63
全国	60.3

本年度の結果について

○取組の成果と課題

昨年度の結果から，空気の体積変化を調べる検証方法を考えることや，手に持つことのできる物を観察する時の虫眼鏡の使い方に課題がみられた。そこで，課題となった問題を，授業で実験や観察を通して体験させ，ノートに文章や絵や図で表現したり，ペア学習で話し合ったりする時間を確保した。その結果として，知識・活用問題ともに県平均を上回ることができ，一定の定着がみられた。しかし，観察・実験の技法の評価観点からみると，まだ十分に力が付いているとは言えない。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題

地球に関する問題で「実験結果の見通しを伴った解決の方向性の構想（54.8%），実験結果をもとにした分析（24.7%）」など，課題が残った。

重点課題

【課題１】「生命・地球」区分の土地の浸食について，予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想することができていない。

【課題２】「生命・地球」区分のより妥当な考えをつくりだすために，実験結果をもとに分析して考察し，その内容を記述できていない。

標準学力調査に向けた重点取組

授業と繰り返し学習を通して次の取組を行う。

【課題１】【課題２】ともに，

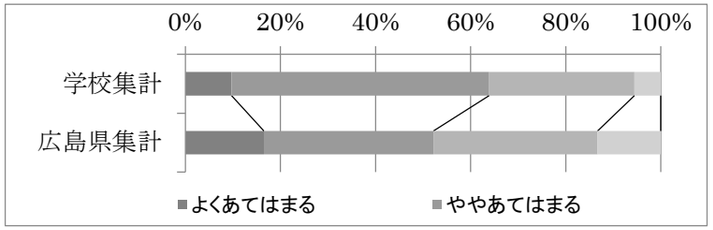
仮説を立てることにとどまらず，仮設の理由付け，さらには結果を基に自分なりの考察をノートにまとめたり，ペアで話し合ったりする時間を確保し，結果の妥当性を検証する。また，推論し考えを記述できる市販のプリントを使用したり，校内で作成したりして，桜山タイムや宿題などで繰り返し取り組ませる。

取組計画表

	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
校内研修等（職員）	・全職員で通過率の低かった問題の誤答分析と改善策を考える。		公開研究会	記述式プリントの検討・作成	課題のある問題の取組方についての研修			
児童への取組		【授業】アクティブラーニングを導入した授業の実施（とらえ方・考え方を大切にした授業やノート指導・対話を取り入れた授業等の実施により，論理的思考力を育む。）		【繰り返し学習】桜山タイムや宿題で記述式プリントを実施	学期末テスト（平均８５点）	標準学力調査（全国平均＋８ポイント）		学年末テスト（平均８５点）

質問紙調査　（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）

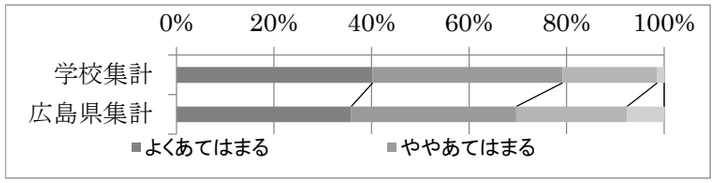
（1）生活・学習



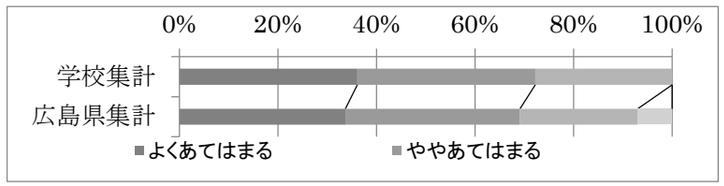
児童生徒の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び
授業では，問題を解決するために，進んで資料を集めたり取材をしたりしている。(63.9%)	授業の中で児童自らが調べたくなるような活動を仕組み，学校図書館を利用して必要な資料を集めたり，インタビューをしたりする活動へつなげていく。	5	肯定的評価(70%)	児童アンケート調査	１２月		

（2）教科

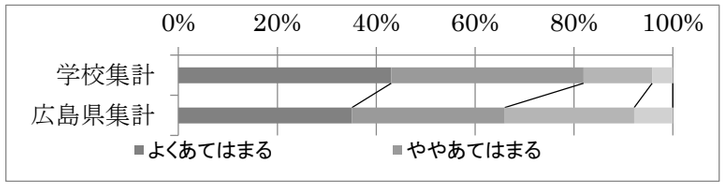
国語の授業で学んだことを，普段の生活で使ったり，学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



算数の授業では，式が何を表しているのかを考えたり，式に当てはまる問題を作ったりしています。



理科の授業では，自分の考えを周りの人に説明したり発表したりしています。



	児童の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び
国語	国語の授業で学んだことを，普段の生活で使ったり，学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしている。(79.2%)	よりよい言語活動の充実を図り，授業で学んだ読み方や書き方の手法を生かして，新聞の読み方や要旨のまとめ方などに使えるという実感をもたせるようにする。	5	肯定的評価(80%)	児童アンケート調査	１２月		
算数	算数の授業では，式が何を表しているのかを考えたり，式に当てはまる問題を作ったりしている。(72.2%)	立式するだけでなく，式の意味や立式の根拠をノートにまとめたり，発表したりする活動を入れて，問題作りへも発展させる。	5	肯定的評価(75%)	児童アンケート調査	１２月		
理科	理科の授業では，自分の考えを周りの人に説明したり発表したりしている。(81.9%)	仮説を立てることにとどまらず，なぜそう考えたのかをノートにまとめたり，ペア学習で伝えたりする時間を確保する。	5	肯定的評価(83%)	児童アンケート調査	１２月		